

課題作文練習

どんぐりスクール

出典 二〇一二年度・福井県立高等学校校入試・大問五

次の文章は、新聞の投書欄に掲載された文章である。この投書を読んであなたが考えたことを、あとの注意に従って書け。なお、投書の見出し、投書した人の名前、職業、居住地、年齢は省略してある。

地上波テレビ放送は岩手、宮城、福島の三県を除いてデジタル放送化したが、わが家はまだデジタル化していない。まだと
いうか、しばらくはしらないと思う。

五年ほど前にテレビが故障してからテレビがない生活を送ってきた。小学六年生と二年生の娘たちも内心は見たいのかもしれないが、テレビを超える楽しさを味わっている。ゆっくり新聞を読む時間も、本を読む時間も、工作をする時間も、テレビのスイッチを切ってからはたくさん生まれている。子どもたちの発想力や構想力が立体的で奥行きのあるものになってきているような気がする。

もちろん、テレビに優れた内容の番組があることも、生活の中でテレビを必要としている人がいることも理解している。しかし、テレビを見ないと決めれば、わからないことや疑問に思ったことを書物や新聞の世界に探ったり、試行錯誤を繰り返しながら問題を解決したりする力は身につくであろう。だから、私はしばらくは地デジの流れに反して、テレビのない生活を続けてみたいと思う。

(平成二十三年八月二十一日 朝日新聞「声」による)

注意

- 1 本文は二段落構成にし、十行以上、十二行以内で書くこと。(一行は二〇字である)
- 2 第一段落には、投書の内容を簡潔にまとめて書くこと。文章を書くときは、「投書の筆者は」と書き始めること。
- 3 第二段落には、第一段落に書いたことと関連付けて、あなたの考えを書くこと。
- 4 題名や氏名は書かないで、直接本文から書き始めること。
- 5 原稿用紙の正しい使い方に従い、文字や仮名遣いなどを正しく書くこと。また、漢字を適切に使用すること。